

農作物病害虫発生現況情報（6月） 水稻編

1 ばか苗病

(1) 6月中旬（6/13～22）の巡回調査（県内148地点）では、1圃場で発生が確認された（表1）。

表1 本田におけるばか苗発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	(参考)	
			R4発生圃場数	R3発生圃場数
県中	56	0	1	4
県北	26	1	0	3
県南	54	0	2	5
遠野	12	0	0	1
全県	148	1	3	13

2 いもち病

(1) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、発生は確認されていない（6月28日現在、接種日6月22日）。

(2) 6月上旬の調査では、県南部の複数地点において取置き苗での発病が確認された（令和5年6月5日発表病害虫防除速報No. 5を参照）。

(3) 6月中旬の巡回調査では、本田での発生は確認されなかった。

3 イネミズゾウムシ

(1) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、5月第3半旬から第5半旬にかけて成虫数及び食害度の増加が見られた（図1）。

(2) 6月中旬の巡回調査（県内148地点）では、発生圃場率は29.7%（平年21.6%）で平年よりやや高かった（図2）。

(3) 地域別では、奥羽、岩手、胆江、一関、遠野、二戸地域で食害程度（中以上）が高かった（図3）。

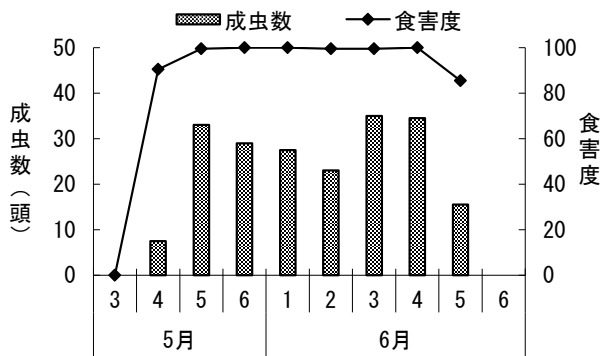


図1 基準圃場におけるイネミズゾウムシ成虫の発生消長と食害度

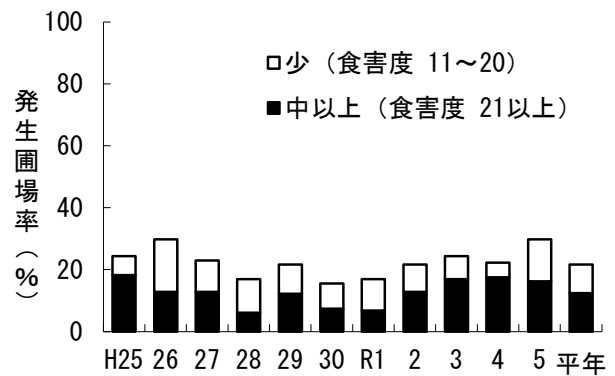


図2 イネミズゾウムシ発生圃場率の年次推移（6月中旬、食害度）

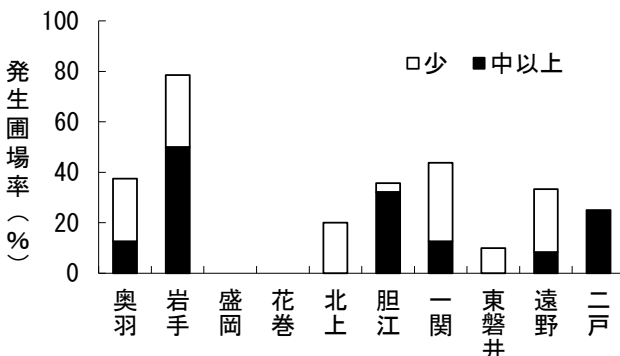


図3 地域別のイネミズゾウムシ発生圃場率（6月中旬、食害度）

4 イネドロオイムシ

(1) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は8.1% (平年3.6%) で平年より高かった (図4)。

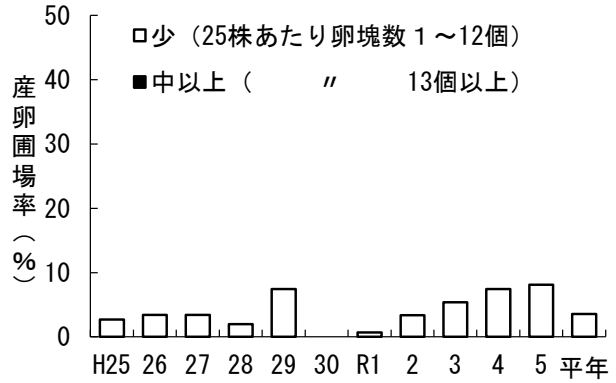


図4 イネドロオイムシ産卵圃場率の年次推移 (6月中旬、程度は25株当たり卵塊数)

5 斑点米カメムシ類

(1) 基準圃場 (北上市成田、イタリアンライグラス) におけるすくい取り調査では、6月第2半旬からアカスジカスミカメ成虫の発生が確認された (図5)。

(2) 6月中旬の水田畦畔すくい取り調査 (県内39地点) では、斑点米カメムシ類の発生圃場率は41.0% (平年30.0%) で平年よりやや高かった (図6)。

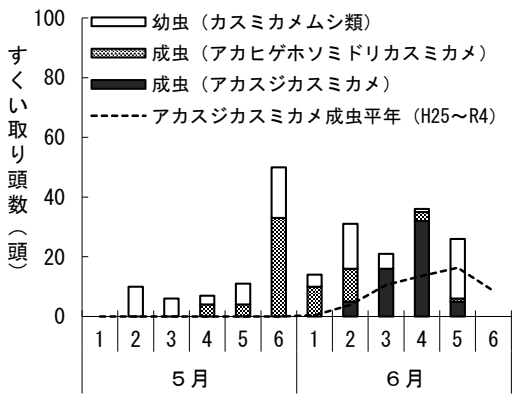


図5 基準圃場 (北上市成田、イタリアンライグラス) における斑点米カメムシ類発消長 (往復20回振)

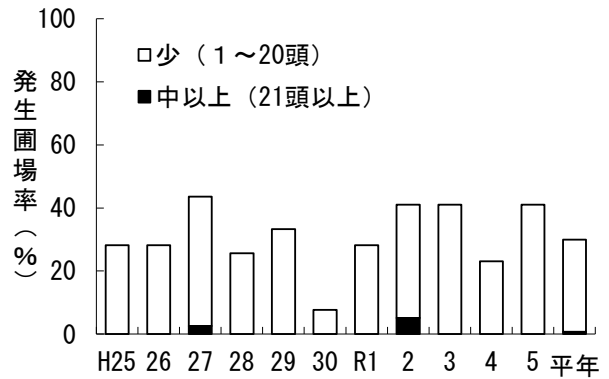


図6 斑点米カメムシ類発生圃場率の年次推移 (水田畦畔、往復20回振)

6 コバネイナゴ

(1) 6月中旬の水田畦畔すくい取り調査 (県内39地点) では、発生圃場率は64.1% (平年53.6%) で平年並であったが、発生程度中以上の圃場率は17.9% (平年7.2%) で平年より高かった (図7)。

7 フタオビコヤガ (イネアオムシ)

(1) 6月中旬の本田すくい取り調査 (県内39地点) では、発生圃場率は5.1% (平年2.1%) で平年よりやや高かった (図8)。

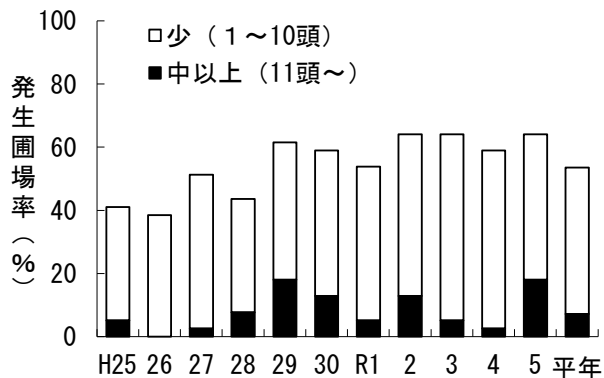


図7 コバネイナゴ発生圃場率の年次推移 (6月中旬、水田畦畔、往復20回振)

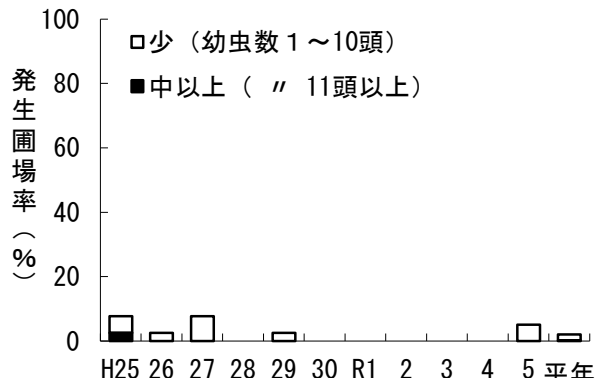


図8 フタオビコヤガ (イネアオムシ) 幼虫発生圃場率の年次推移 (6月中旬、本田、往復20回振)

農作物病害虫発生現況情報（6月）麦 編

1 うどんこ病

(1) 6月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった(図1)。

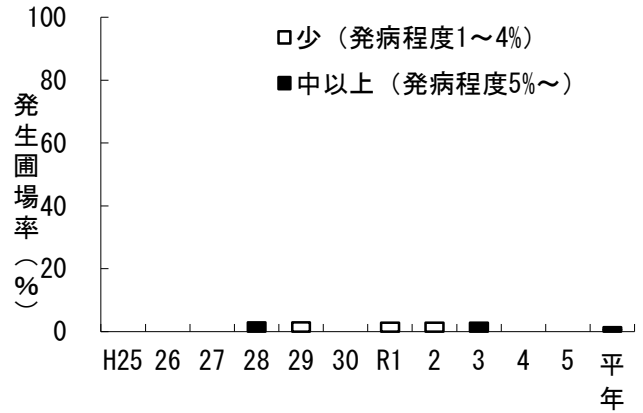


図1 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (6月中旬)

2 赤かび病

(1) 6月中旬の巡回調査では、発生圃場率は22.9% (平年14.8%) で平年より高かったが、発病穂率は平年並だった (図2)。

(2) 地域別では、県南部で発生圃場率が高かった (表1)。

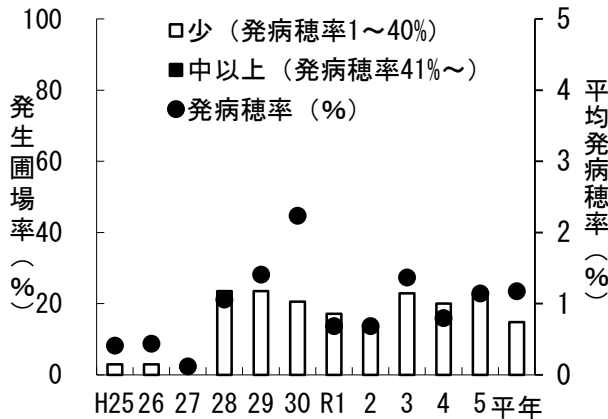


図2 赤かび病の発生圃場率の年次推移 (6月中旬)

表1 地域別の赤かび病発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率 (%)
県北	6	1	16.7
県中	24	4	16.7
県南	5	3	60.0
全県	35	8	22.9

3 さび病類 (赤さび病)

(1) 6月中旬の巡回調査では、発生圃場率は17.1% (平年21.0%) で平年並だった (図3)。

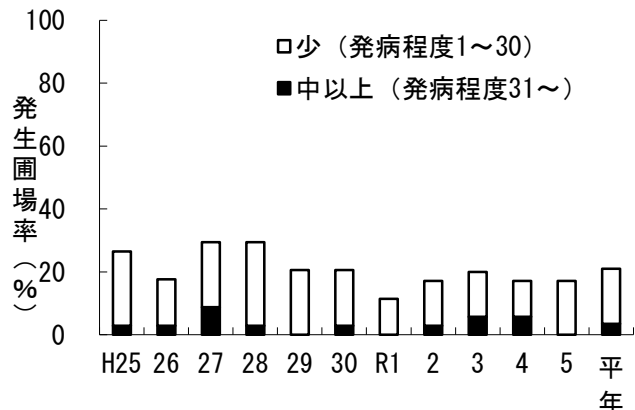


図3 赤さび病の発生圃場率の年次推移 (6月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月）りんご編

1 モニリア病

(1) 6月前半の巡回調査では、発生が確認されなかった（平成1.0%）（図1）。

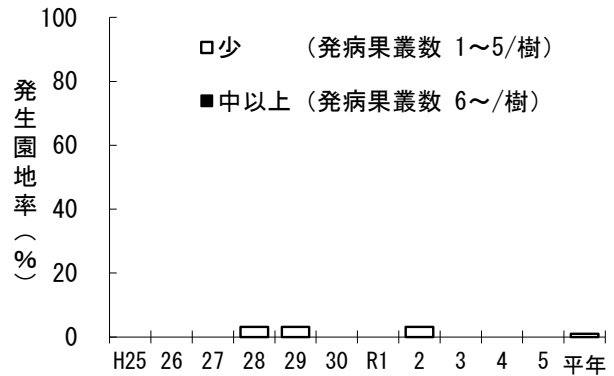


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移
（6月前半、実ぐされ及び株ぐされ）

2 斑点落葉病

(1) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）では、初発生は6月第1半旬であった。新梢葉では6月第3半旬から第4半旬にかけて急増した（図2）。

(2) 6月後半の巡回調査では、発生園地率は51.6%（平成18.1%）で平成より高かった。また、発生程度中以上の園地は12.9%（平成0.3%）で平成より高かった（図3）。

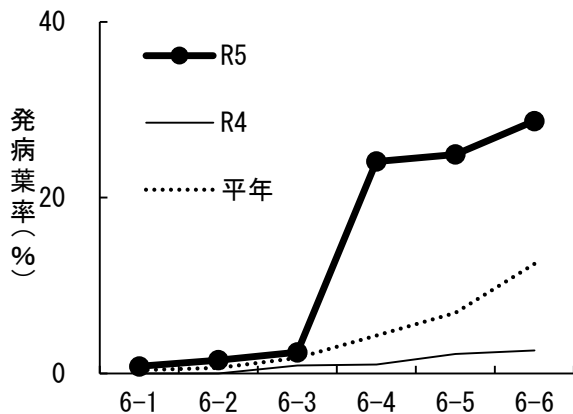


図2 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移
（半旬別、スターキングデリシャス、新梢葉、無防除）

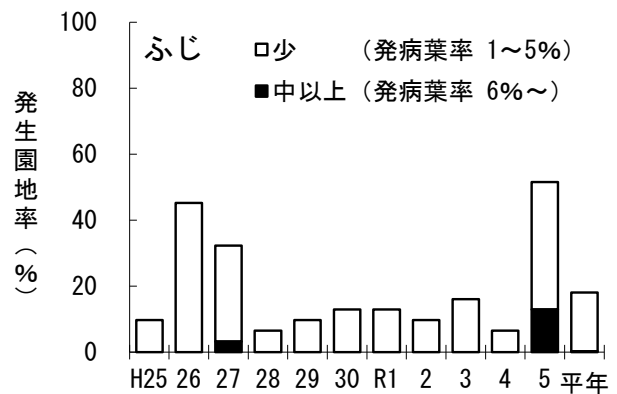


図3 斑点落葉病の発生園地率の年次推移
（6月後半、新梢葉、ふじ）

3 黒星病

(1) 6月後半の巡回調査では、新梢葉の発生園地率は12.9%（平成8.1%）で平成よりやや高かったが、発生程度中以上の園地は確認されなかった（図4）。

(2) 地域別では、県中部でのみ発生が確認された（図5）。

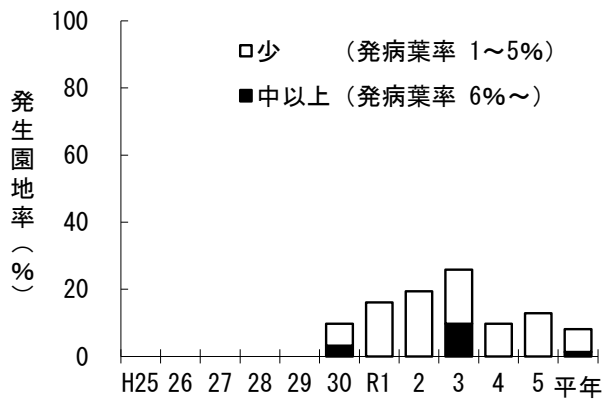


図4 黒星病の年次別発生園地率
(6月後半、新梢葉)

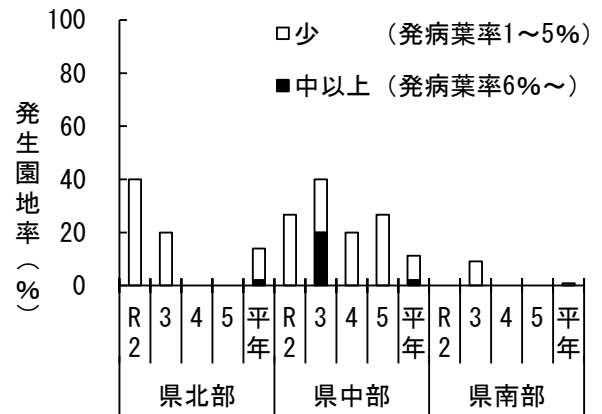


図5 黒星病の地域別発生園地率
(6月後半、新梢葉)

4 赤星病

(1) 6月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった(平年4.2%) (図6)。

5 うどんこ病

(1) 6月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった(平年1.3%) (図7)。

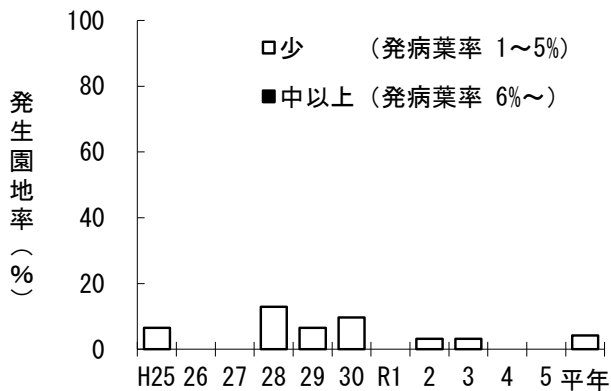


図6 赤星病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

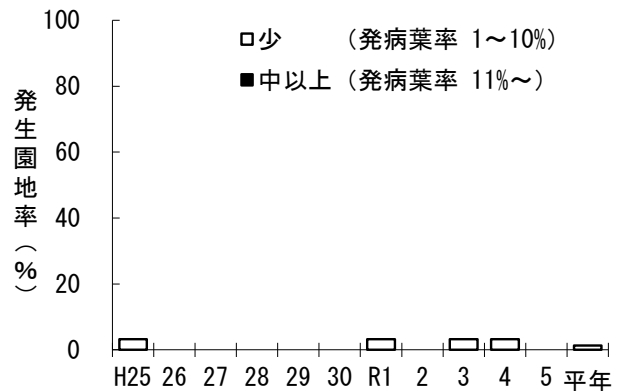


図7 うどんこ病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

6 褐斑病

(1) 基準圃場(北上市成田、ふじ、無防除)では、果叢葉での初発生は5月第4半旬と過去最も早かった。6月第6半旬時点の新梢葉での発病葉率は50.3%(平年1.4%)で平年より高かった(図8)。

(2) 6月後半の巡回調査では、複数の園地で早期発生が確認され、発生園地率は16.1%(平年2.6%)で平年より高かった(図9)。

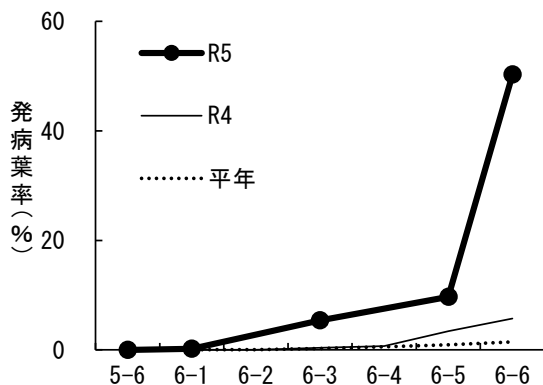


図8 基準圃場における褐斑病の発病葉率の時期別推移(半旬別、ふじ、新梢葉、無防除)

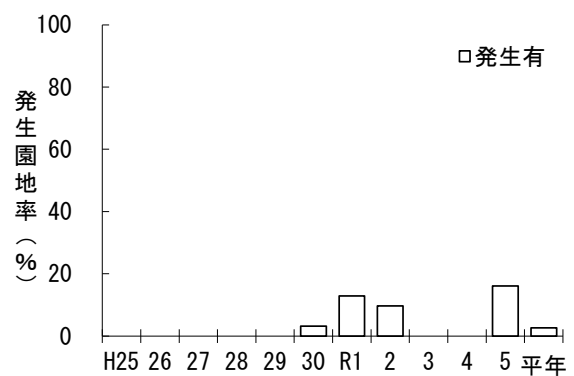


図9 褐斑病の発生園地率の年次推移(6月後半)

7 キンモンホソガ

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）における第1世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は、6月第1半旬から確認された（図10）。
- (2) 6月前半の巡回調査では、第1世代幼虫の発生圃地率は67.7%（平年11.6%）、発生程度中以上の圃地は32.3%（平年3.9%）でいずれも平年より高かった（図11）。
- (3) 地区別では、すべての地区で発生程度中以上の圃地が見られた（図12）。

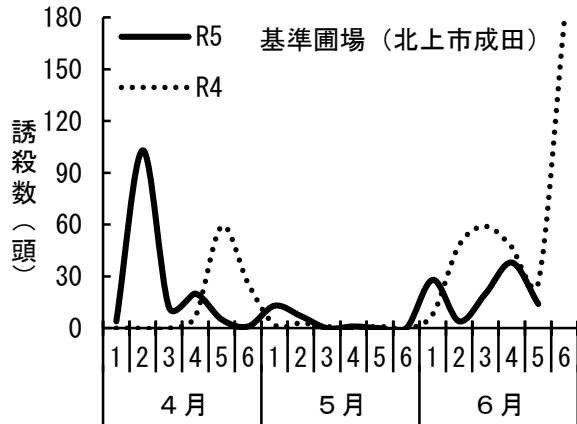


図10 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況（北上市成田、無防除）

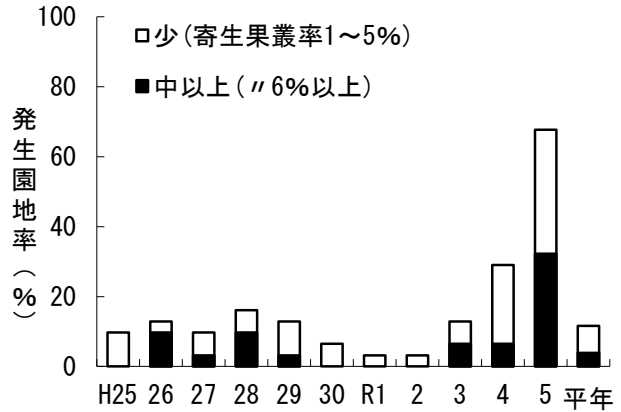


図11 キンモンホソガの発生圃地率の年次推移（6月前半、果叢葉）

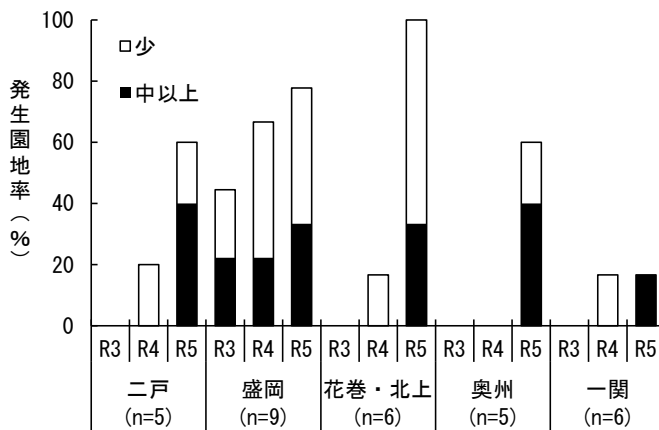


図12 キンモンホソガの地区別発生圃地率

8 リンゴハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生圃地率は22.6%（平年24.8%）、発生程度中以上の圃地は12.9%（平年13.5%）で、ともに平年並だった（図13）。
- (2) 6月後半の地域別発生状況は、県北部において発生圃地率は平年より高かった（図14）。
- (3) 時期別では、越冬卵の発生度は平年より高かったが、その後、平年並となった（図15）。

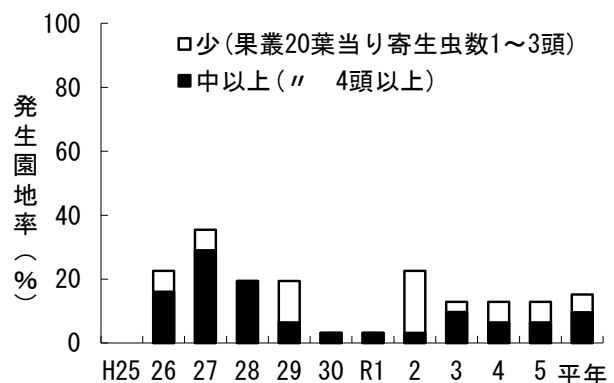


図13 リンゴハダニの発生圃地率の年次推移（6月後半、果叢葉）

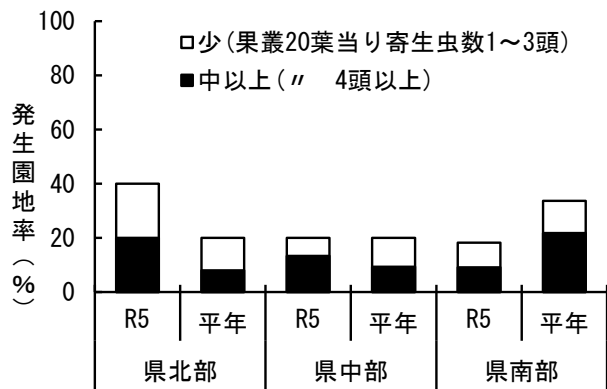


図14 リンゴハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

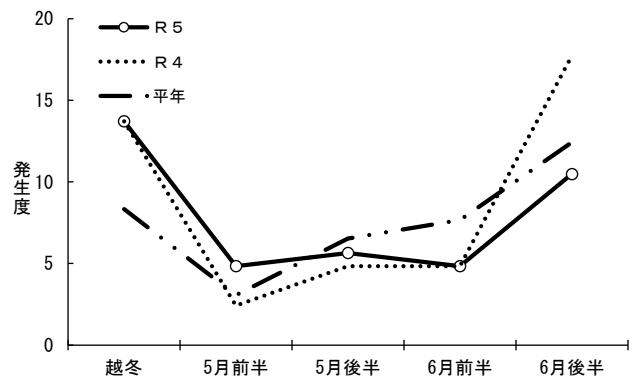


図15 リンゴハダニの時期別発生度の推移 (目通り)
 ※発生度：(4甚+3多+2中+少) × 100 / (調査圃場数 × 4)
 (発生程度の評価基準は時期によって異なる)

9 ナミハダニ

- 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生園地率は32.3% (平年33.3%) で、平年並だった (図16)。
- 6月後半の地域別発生状況は、県北部のすべての園地で発生が見られ、発生園地率は平年より高かった (図17)。
- 時期別では、すべての時期において、平年並に推移している (図18)。

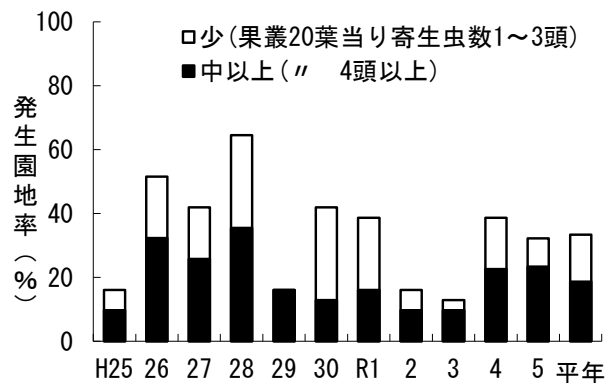


図16 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

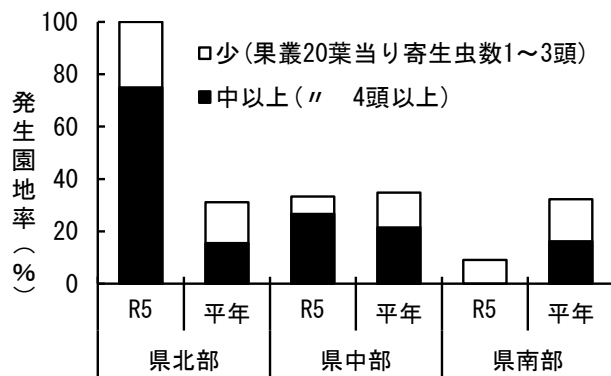


図17 ナミハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

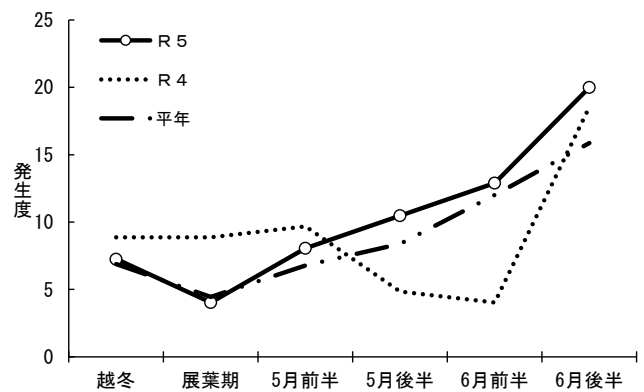


図18 ナミハダニの時期別発生度の推移 (目通り)
 ※発生度：(4甚+3多+2中+少) × 100 / (調査圃場数 × 4)
 (発生程度の評価基準は時期によって異なる)

10 アブラムシ類

- 6月前半の巡回調査における発生園地率は35.5% (平年72.9%) で平年より低く、6月後半は32.3% (平年39.7%) で平年並だった (図19)。
- 発生が見られた種は、ユキヤナギアブラムシ、リンゴミドリアブラムシであり、一部園地でリンゴゴブアブラムシが見られた。

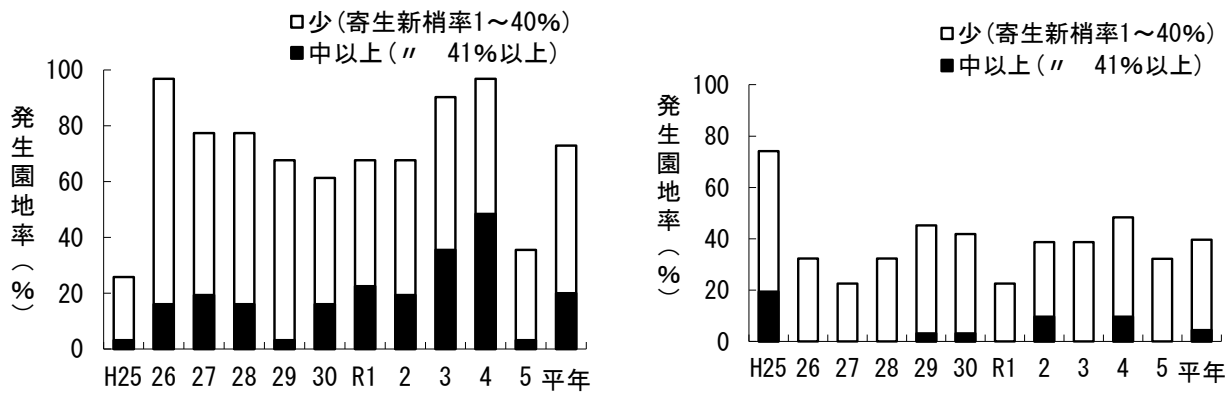


図19 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (左：6月前半、右：6月後半)

11 モモチョッキリゾウムシ

(1) 6月前半の巡回調査では、被害果叢の発生園地率は16.1% (平年5.8%) で平年よりやや高かった (図20)。

12 ギンモンハモグリガ

(1) 6月後半の巡回調査では、被害葉は確認されなかった (図21)。

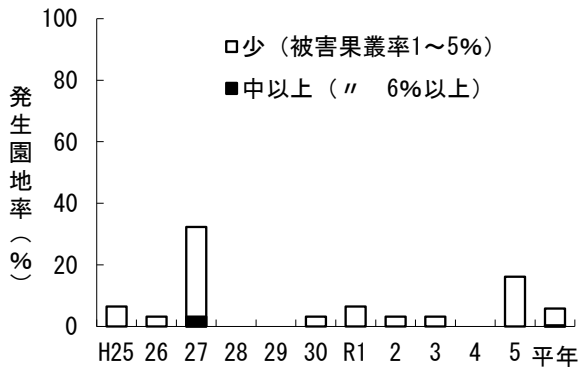


図20 モモチョッキリゾウムシの発生園地率の年次推移 (6月前半、被害果)

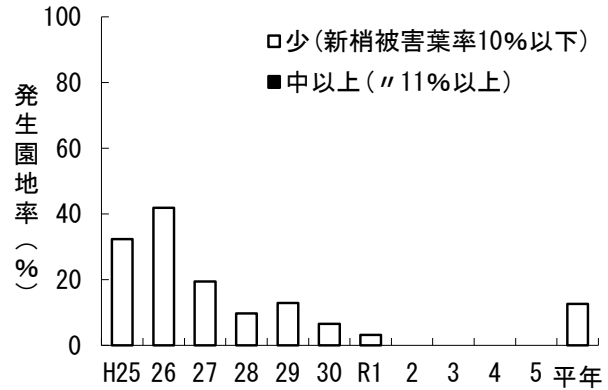


図21 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (6月後半、被害葉)

13 果樹カメムシ類

(1) 6月前半の巡回調査では、被害果の発生園地率は6.5% (平年8.7%) で平年並、6月後半は29.0% (平年15.5%) で平年よりやや高かった (図22)。両時期ともに発生程度中以上の園地が見られた。

(2) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、6月第4半旬時点で、基準圃場 (北上市成田：無防除) 及び現地圃地 (盛岡市川目) では、1半旬あたり5頭以上の誘殺は確認されなかった (図23)。 ※5月下旬～6月下旬において、半旬あたり5頭以上誘殺される場合、多発年もしくは激発年となる可能性がある (令和元年度防除技術情報)

(3) 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺は、6月第4半旬時点で、北上市成田、盛岡市川目ともに、平年並に推移している (図24)。

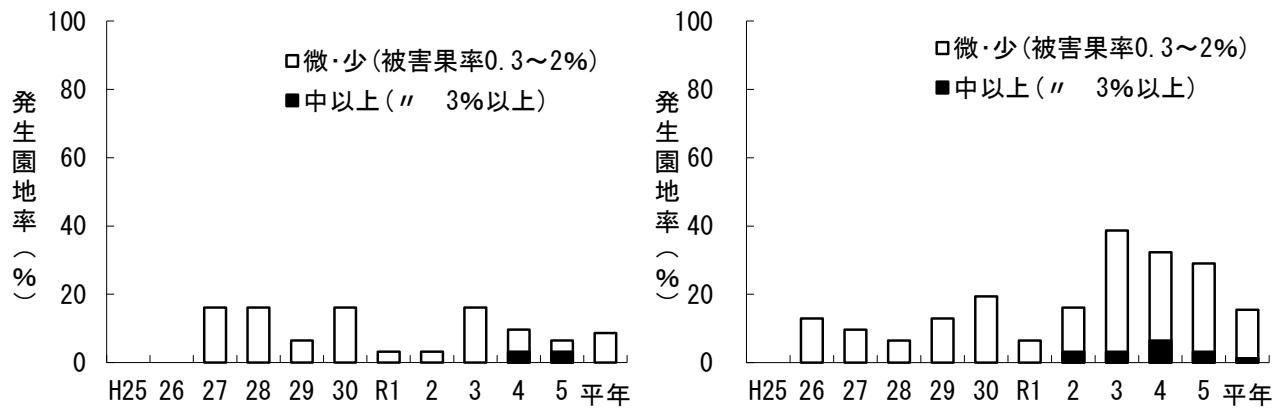


図22 果樹カメムシ類の発生園地率の年次推移
(ふじ、被害果、左：6月前半、右：6月後半)

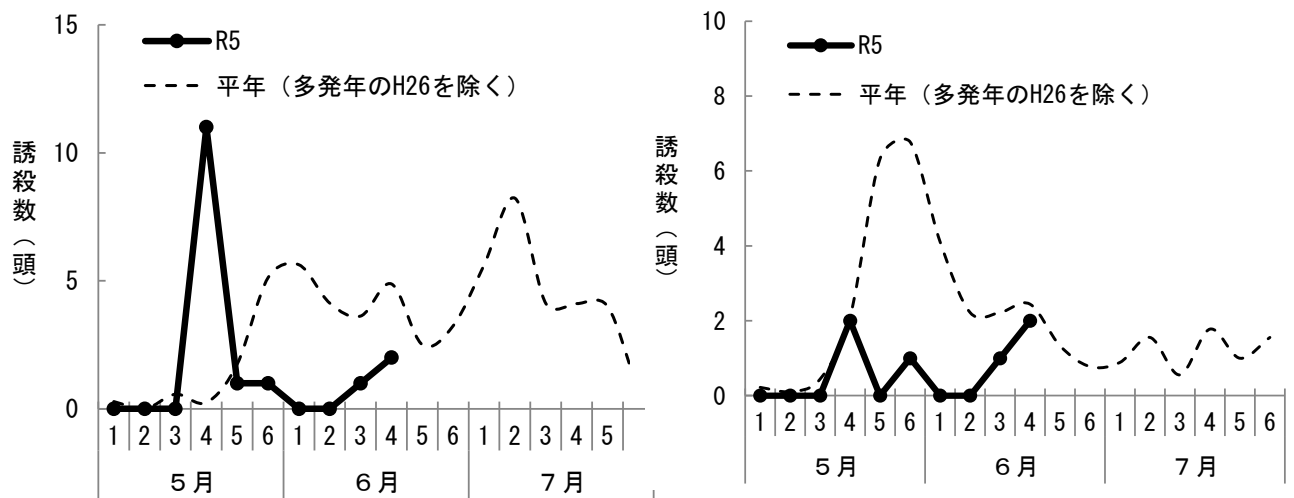


図23 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況
(左：基準圃場 (北上市成田)、右：盛岡市川目)

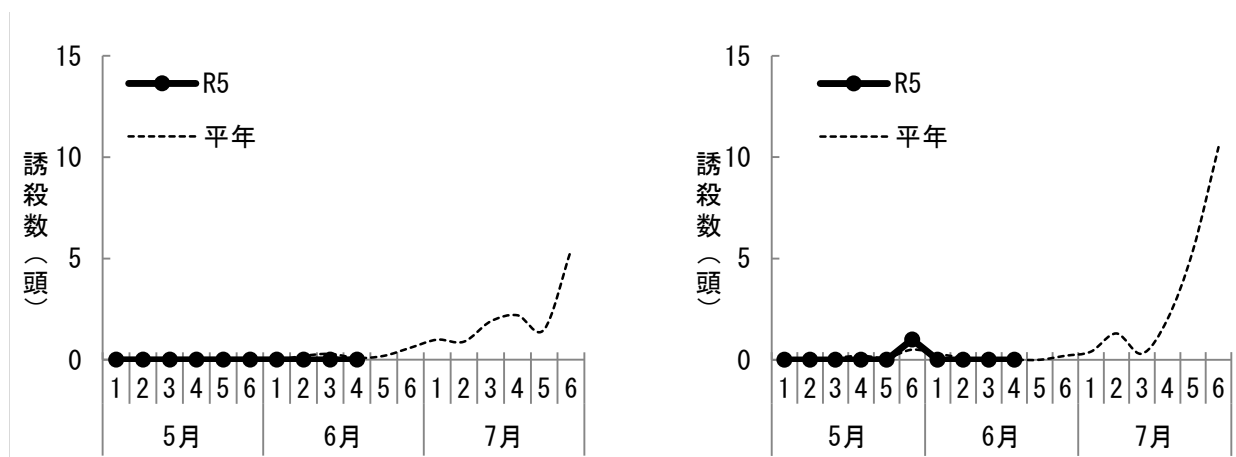


図24 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左：北上市成田、右：盛岡市川目)

農作物病害虫発生現況情報（6月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 6月下旬の巡回調査での発生圃場率は7.7%（平年8.5%）で、平年並だった（図1）。

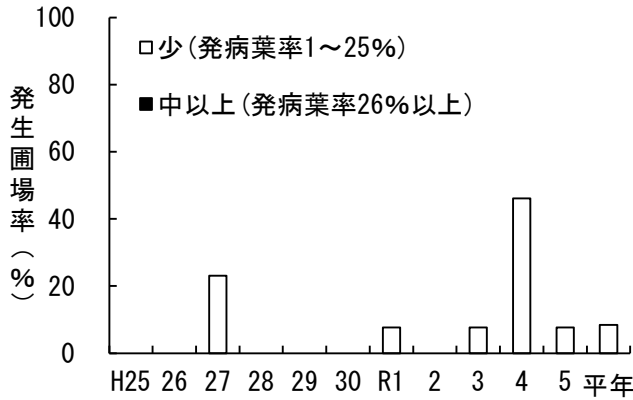


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

2 うどんこ病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年3.1%、図2）。

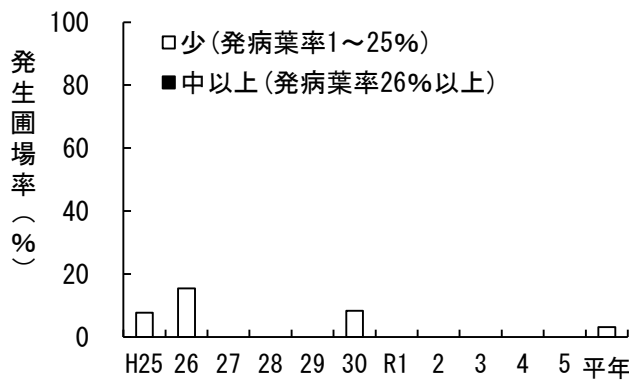


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

3 斑点細菌病

(1) 6月下旬の巡回調査での発生圃場率は69.2%（平年37.5%）で、平年より高かった（図3）。

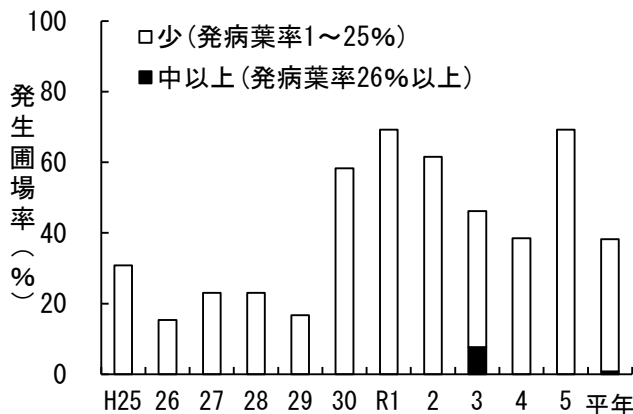


図3 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

4 黒星病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年30.2%、図4）。

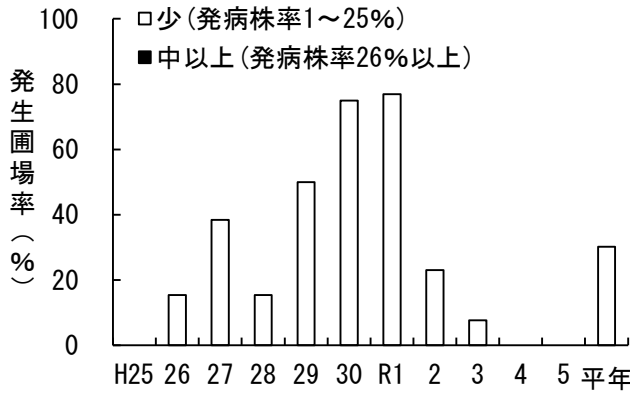


図4 黒星病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

5 ワタアブラムシ

(1) 6月下旬の巡回調査での発生圃場率は23.1%（平年40.7%）で平年より低かったが、一部で発生程度の高い圃場があった（図5）。

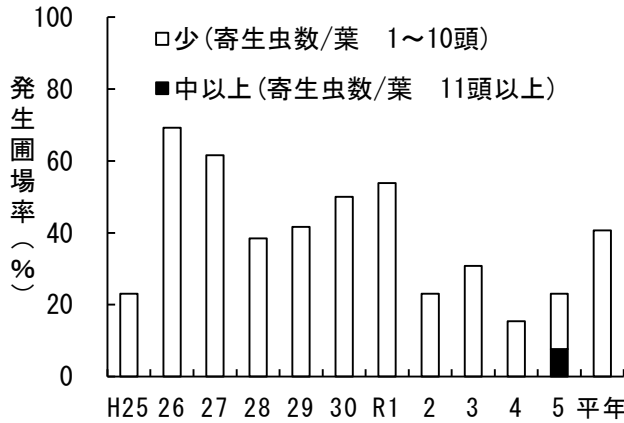


図5 ワタアブラムシの発生圃場率の年次推移（6月下旬）

6 ハダニ類

(1) 6月下旬の巡回調査での発生圃場率は15.4%（平年13.1%）で、平年並だった（図6）。

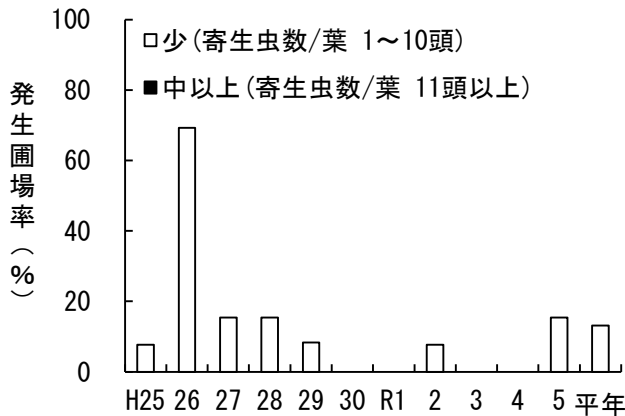


図6 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

農作物病害虫発生現況情報（6月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多く推移した（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図3）。
- (4) 6月中旬の巡回調査では、産卵、幼虫の発生は共に確認されなかった（産卵圃場率平年20.4%、幼虫発生圃場率平年26.9%）（図4、5）。

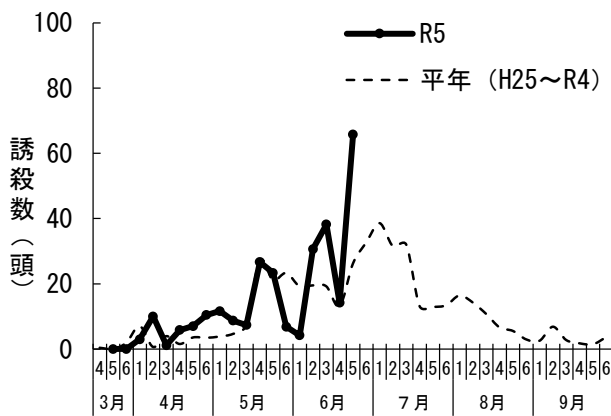


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

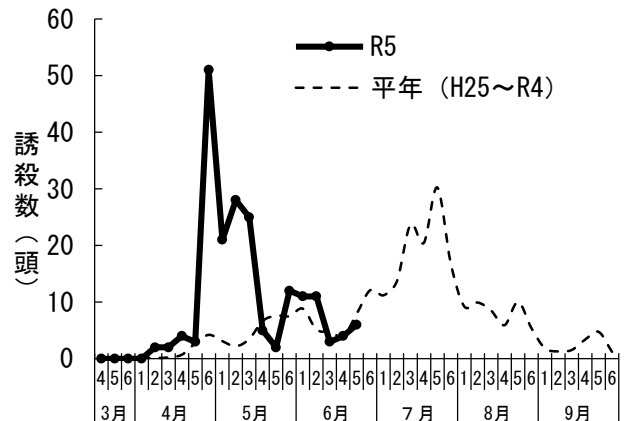


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

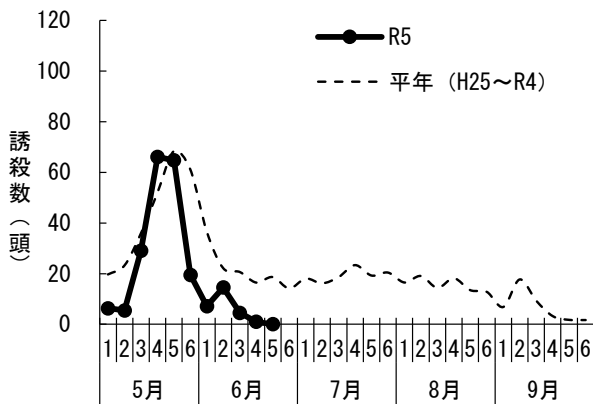


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

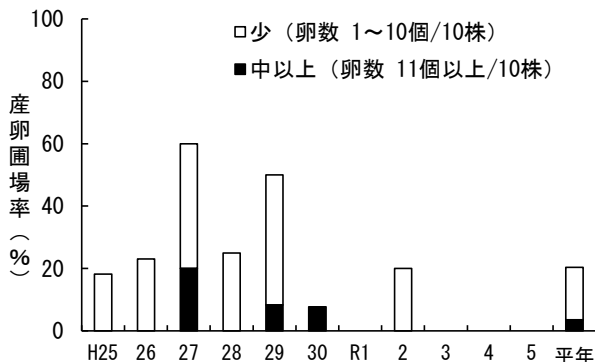


図4 コナガの産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

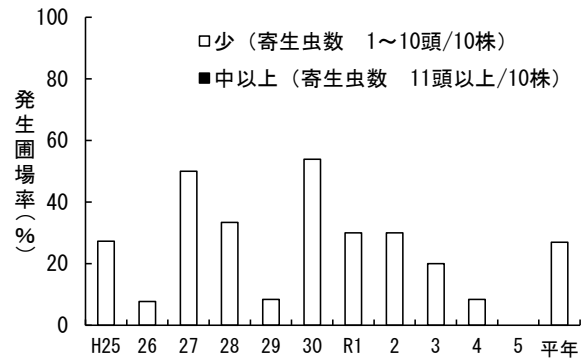


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、6月第1半旬に確認された（図6）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、主に6月上旬に確認された（図7）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、6月第1半旬に多く確認された（図8）。
- (4) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は30.0%（平年33.3%）であり、平年並だった（図9）。

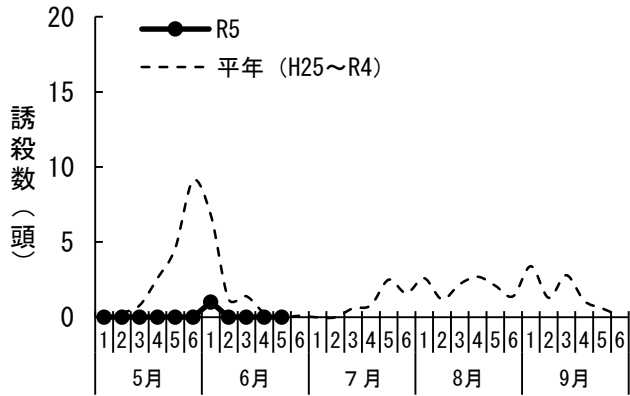


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

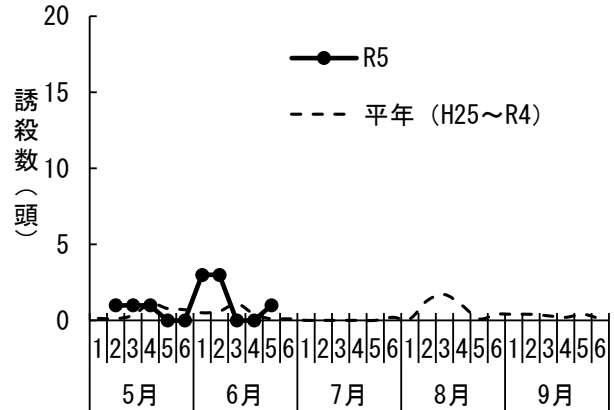


図7 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

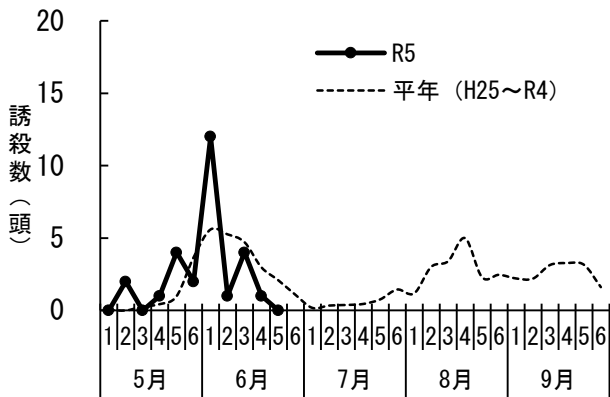


図8 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

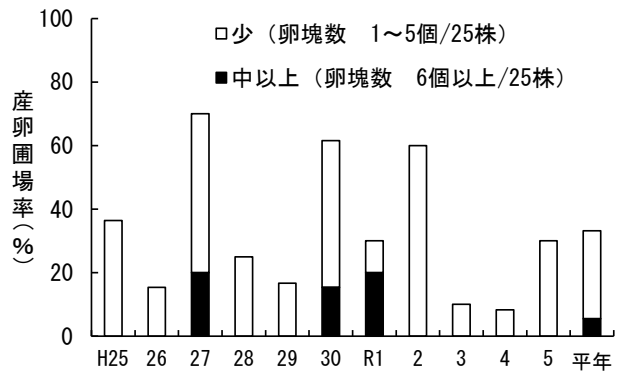


図9 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

3 タマナギンウワバ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多く推移した（図10）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、5月第6半旬にピークが見られ、6月第1半旬以降は平年並みに推移した（図11）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、6月第2半旬にピークが見られた（図12）。
- (4) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は50.0%（平年51.5%）で平年並、幼虫の発生圃場率は50.0%（平年24.7%）で、より多かった（図13、14）。

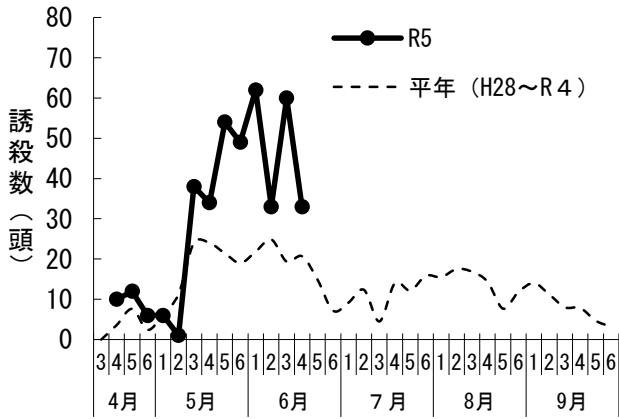


図10 基準圃場（北上市成田）におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

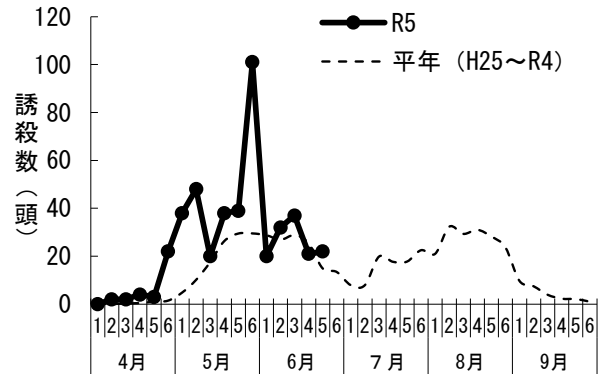


図11 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

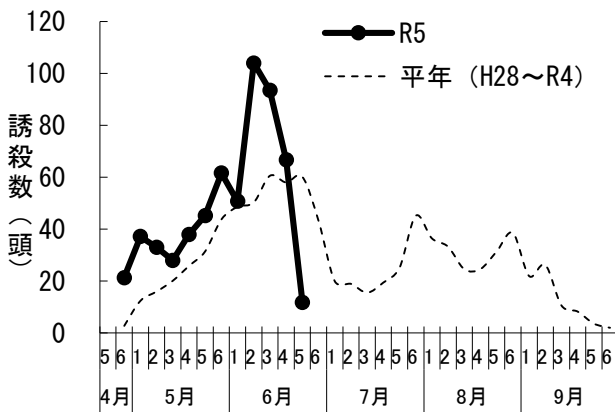


図12 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

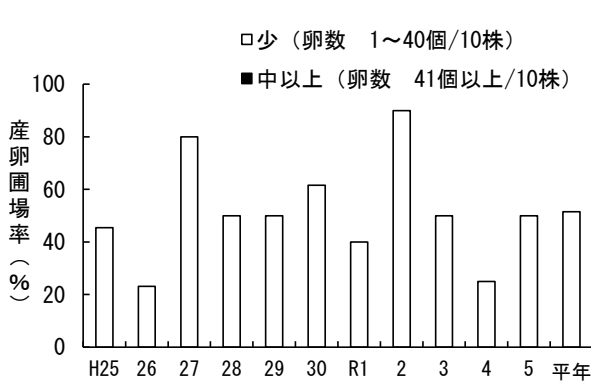


図13 タマナギンウワバ産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

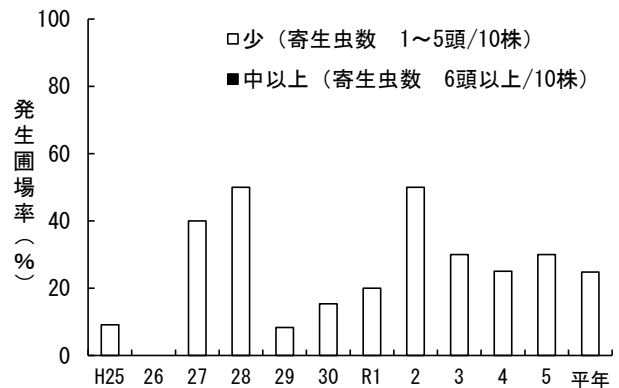


図14 タマナギンウワバ幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

4 モンシロチョウ

(1) 6月中旬の巡回調査では、幼虫の発生は確認されなかった（平年4.3%）（図15）。

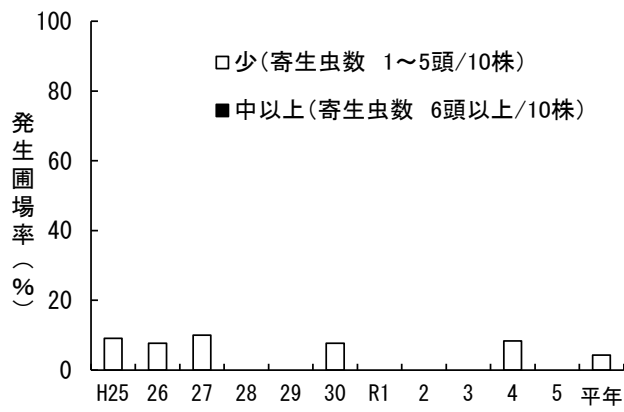


図15 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移
(6月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月） ねぎ編

1 さび病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（図1）。

2 ベと病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（図2）。

(2) 現地では、一部圃場で発生が確認されている。

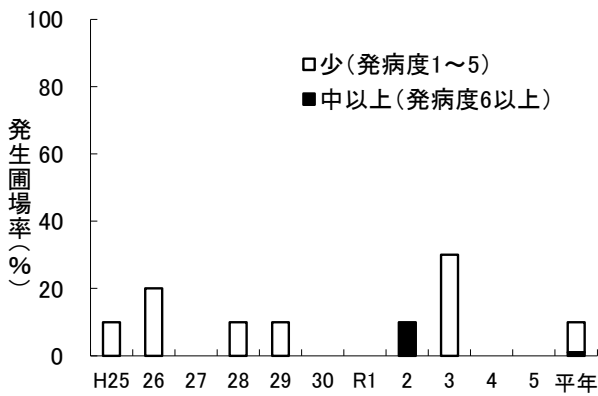


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

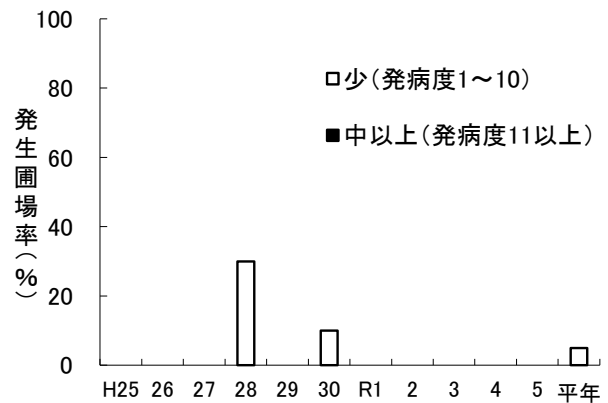


図2 ベと病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

3 黒斑病・葉枯病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年2.0%）であり、平年より高かった（図3）。

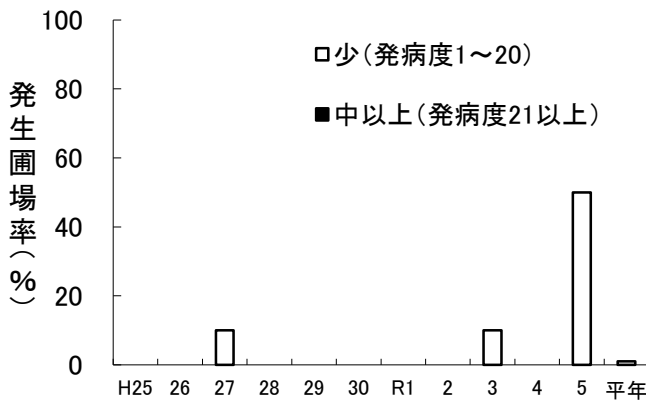


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

4 ネギコガ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった(図4)。

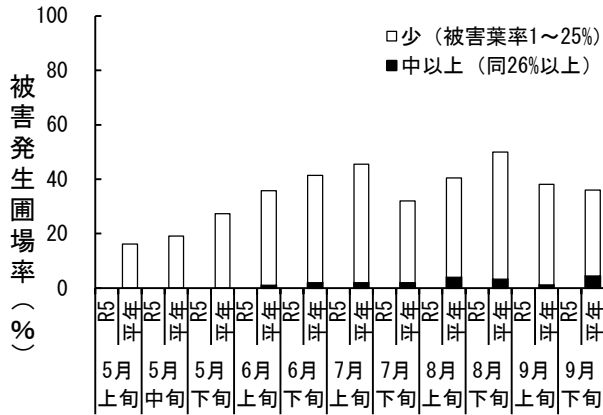


図4 ネギコガの発生圃場率の時期別推移

5 ネギハモグリバエ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は 40.0% (平年 48.6%)、被害程度中以上の圃場は 10.0% (平年 13.2%) で、いずれも平年並だった(図5)。

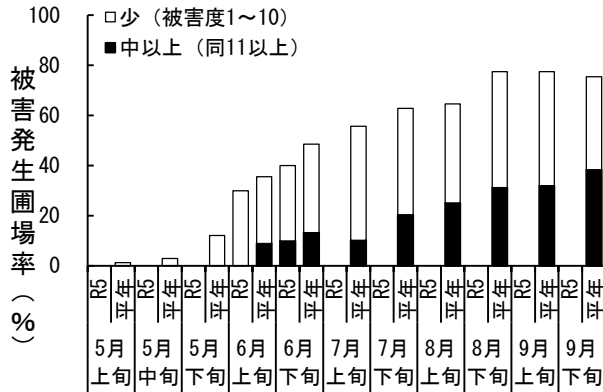


図5 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

6 ネギアザミウマ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0% (平年 93.0%) で平年よりやや高かったが、被害程度中以上の圃場率は30.0% (平年 40.8%) であり平年よりやや低かった(図6)。

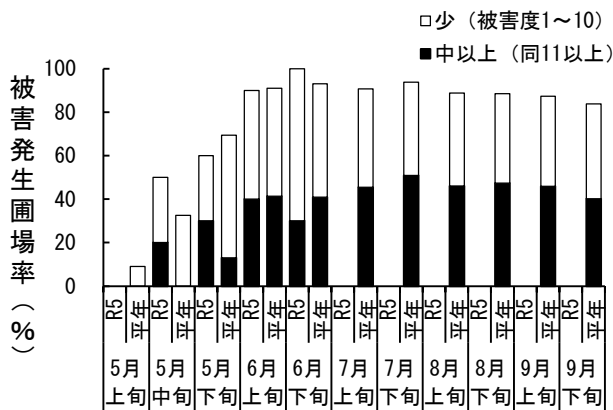


図6 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

農作物病害虫発生現況情報（6月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 6月下旬の巡回調査での発生圃場率は30.8%（平年12.4%）で平年より高かった（図1）。

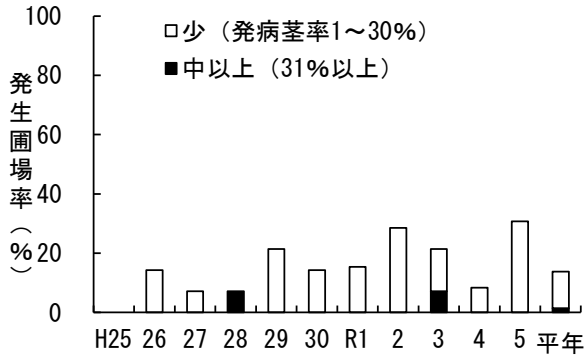


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

2 ハダニ類

(1) 6月下旬の巡回調査での発生圃場率は15.4%（平年22.3%）で平年よりやや低かったが、発生程度の高い圃場率は平年より高かった（図2）。

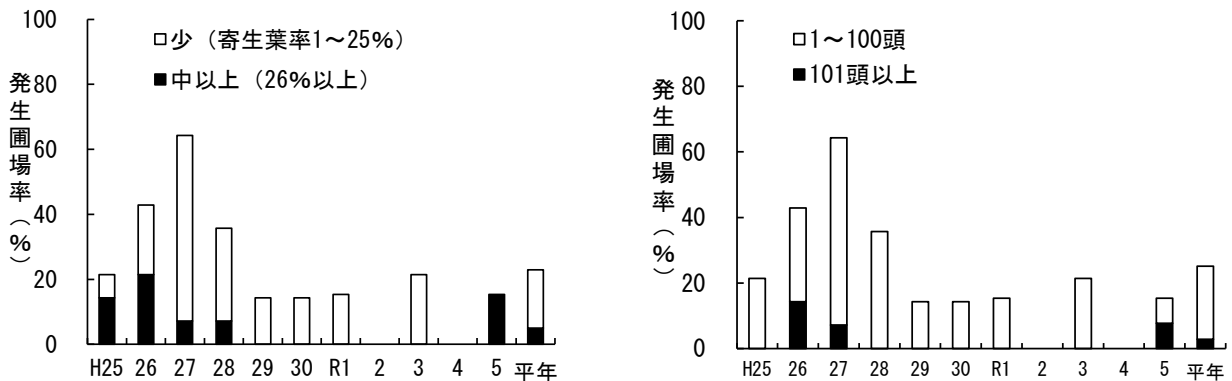


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、6月下旬）

3 リンドウホソハマキ

(1) 6月下旬の巡回調査では、潜葉痕並びに生長部及び茎部被害の発生は確認されなかった（平年発生圃場率：潜葉痕20.9%、成長部及び茎部被害11.0%、図3）。

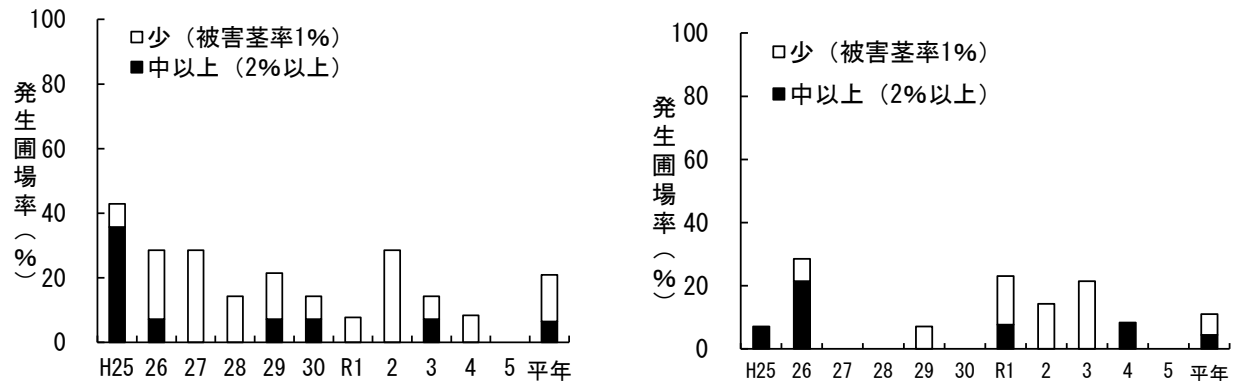


図3 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移（左：潜葉痕、右：生長部・茎部被害、6月下旬）